



平成 24 年 6 月 29 日

各 位

会 社 名 ア ビ ッ ク ス 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 熊 崎 友 久
(コード番号：7836)
問 合 せ 先 管 理 本 部 本 部 長 桐 原 威 憲
(TEL. 045-670-7720)

(訂正・数値データ訂正あり)

「平成 22 年 3 月期 第 1 四半期決算短信（非連結）」の一部訂正について

平成 21 年 8 月 10 日に公表いたしました標記開示資料に一部訂正を要する箇所がありましたので、下記のとおり訂正致します。また、数値データの修正がありましたので訂正後の数値データも送信致します。

記

1. 訂正理由および訂正影響額の概要等

当社は、平成 24 年 5 月 14 日付「過年度決算訂正の可能性および平成 24 年 3 月期決算短信（非連結）の発表延期についてのお知らせ」にて公表いたしましたとおり、平成 20 年 4 月に行われた取引について不適切な会計処理が判明したため、調査委員会を立ち上げ、調査を進めました。

その結果、平成 20 年 4 月に、当社が販売した製品を仕入先経由で買い戻した取引において、販売先が滞納していた売掛債権の残額にて買い取ったことにより、買い戻した製品の適正評価額以上の資産を計上していたという不適切な会計処理が発覚、それに伴い、過大な資産をレンタル資産として減価償却したため、減価償却費の計上についても訂正の必要性が発覚いたしました。

なお、訂正理由および訂正影響額の詳細につきましては、平成 24 年 6 月 27 日公表の「有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度決算短信等の訂正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所が多岐にわたるため、訂正後の全文を添付し、修正箇所に下線を付しております

以上

平成22年3月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成21年8月10日

上場会社名 アビックス株式会社 上場取引所 JQ
 コード番号 7836 URL <http://www.avix.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)熊崎 友久
 問合せ先責任者 (役職名)管理本部本部長 (氏名)桐原 威憲 TEL (045)670 7711
 四半期報告書提出予定日 平成21年8月14日 配当支払開始予定日 平成 年 月 日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	162	23.2	70		73		57	
21年3月期第1四半期	212		138		142		140	

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年3月期第1四半期	885	87		
21年3月期第1四半期	2,788	13		

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
22年3月期第1四半期	1,759		145		8.3		884 05	
21年3月期	1,868		231		12.4		4,592 27	

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 145百万円 21年3月期 231百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		年間	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
21年3月期			0	00			00	00	00	00
22年3月期										
22年3月期(予想)			0	00			00	00		

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期累計期間	568	30.6	22	-	29	-	29	-	207	25
通期	1,266	36.8	38	-	24	-	24	-	171	52

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

会計基準等の改正に伴う変更 : 無
以外の変更 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

期末発行済株式数（自己株式を含む）

22年3月期第1四半期 164,677株 21年3月期 50,315株

期末自己株式数

22年3月期第1四半期 -株 21年3月期 -株

期中平均株式数（四半期累計期間）

22年3月期第1四半期 65,396株 21年3月期第1四半期 50,315株

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期会計期間におけるわが国の経済は、一部の経済指標において好転が見られるものの、依然として世界経済の減速や金融危機の深刻化、株式市場の低迷なども絡み、景況は不安を残す状況の中推移しました。

このような経済環境は、当社の主力事業であるデジタルサイネージと関連の深い企業広告にも影響を与えております。また、現状における当社事業の中心的市場であるパチンコホール業界においては、大型投資を先送りする姿勢が引続き顕著であり、投資抑制傾向は強い状況となっております。

このような環境下、当社は新しいプロモーションメディアであるデジタルサイネージに係る事業を主力事業とし、LED表示機、LCD、PDPを中心とした映像看板の普及に注力するとともに、映像コンテンツの配信、レンタル事業およびix-board事業（デジタルプロモーションサービス事業であり、3年～6年に亘り月額使用料にて機器を利用できるサービス事業）などの安定収益事業の展開を図ってまいりました。また、経済環境の変化に対応し、安定収益事業を中心とした経営方針の抜本的な改革に着手しております。

LED表示機等の製造・販売を行う情報機器事業につきましては、先述の通りの事業環境であり、全般的に大型の投資に対する抑制傾向は強く、当第1四半期累計期間の実績は、低調なものにとどまりました。

一方、運営事業は映像コンテンツ、メンテナンス共に業容は拡大しており、主力事業として展開しております。映像コンテンツは、映像年間契約に加え、スポット的な制作依頼を引続き受注しており、メンテナンスにおいては、営業強化の戦略により、大きく成果を出してまいりました。

以上の結果、売上高は162,836千円（前年同四半期比23.2%減）となり、営業損失70,045千円（前年同四半期は営業損失138,710千円）、経常損失73,182千円（前年同四半期は経常損失142,531千円）、四半期純損失57,932千円（前年同四半期は四半期純損失140,284千円）となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

資産

流動資産は、前事業年度末比100,959千円減の1,208,918千円となりました。その主な要因は、現金及び預金の減少と売上債権の減少によるものです。

固定資産は、前事業年度末比8,286千円減の550,411千円となりました。その主な要因は、レンタル資産の償却による有形固定資産の減少によるものです。

負債

負債合計は、前事業年度末比485,888千円減の1,613,746千円となりました。その主な要因は、DES（デット・エクイティ・スワップ）による新株予約権付社債の減少によるものです。

純資産

純資産合計は、前事業年度末比376,643千円増の145,583千円となっております。その主な要因は、第三者割当による増資によるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の回収による増加があったものの、税引前四半期純損失、仕入債務の支払等による減少により、61,646千円の支出（前年同四半期は54,528千円の支出）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出がありましたが、有形固定資産の売却による収入により868千円の収入（前年同四半期は23,380千円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

株式の発行による収入があったものの、借入金の返済等により11,197千円の支出（前年同四半期は174,779千円の収入）となりました。

3. 業績予想に関する定性的情報

パチンコホールへの投資スタンスは慎重なまま推移し、当第1四半期の出足は予想以上に鈍かったものの、これは第2四半期以降に案件がずれ込んだものと認識しています。

もともとパチンコホールからの受注が例年年末にかけてピークを迎えるという季節的な要因があります。

当第2四半期以降は、ix-boardの販売が軌道に乗って業績に寄与してくるものと予想しており、運営事業収入と併せ、業容拡大が見込まれます。

したがって、現時点において当期業績はほぼ計画通りを予想しており、平成21年5月15日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

当第1四半期会計期間末の繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前事業年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

定率法を採用している固定資産については、当事業年度にかかる減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成21年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	331,841	403,816
受取手形及び売掛金	150,722	173,865
商品及び製品	490,059	508,546
仕掛品	188	333
原材料及び貯蔵品	174,957	161,618
その他	68,254	68,859
貸倒引当金	7,105	7,161
流動資産合計	1,208,918	1,309,877
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品(純額)	134,461	140,934
レンタル資産(純額)	321,067	341,431
リース資産(純額)	11,976	11,500
有形固定資産合計	467,505	493,865
無形固定資産		
投資その他の資産	3,252	3,700
その他	80,010	61,488
貸倒引当金	357	357
投資その他の資産合計	79,653	61,131
固定資産合計	550,411	558,698
資産合計	1,759,330	1,868,575
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	42,559	79,985
1年内返済予定の長期借入金	150,335	199,728
1年内償還予定の社債	400,000	400,000
未払法人税等	1,057	1,406
製品保証引当金	26,437	26,703
その他	47,858	36,808
流動負債合計	668,248	744,634
固定負債		
社債	50,000	50,000
新株予約権付社債	850,000	1,250,000
長期借入金	20,000	30,000
その他	25,498	25,001
固定負債合計	945,498	1,355,001
負債合計	1,613,746	2,099,635
純資産の部		
株主資本		
資本金	740,262	522,975
資本剰余金	336,172	118,884
利益剰余金	930,851	872,919
株主資本合計	145,583	231,059
純資産合計	145,583	231,059
負債純資産合計	1,759,330	1,868,575

(2) 【四半期損益計算書】

【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	212,162	162,836
売上原価	118,044	90,269
売上総利益	94,117	72,567
販売費及び一般管理費	232,828	142,613
営業損失()	138,710	70,045
営業外収益		
受取利息	130	13
その他	188	100
営業外収益合計	318	113
営業外費用		
支払利息	2,349	994
社債利息	1,059	1,224
その他	730	1,030
営業外費用合計	4,139	3,250
経常損失()	142,531	73,182
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1,917	56
債務免除益	-	15,413
その他	1,209	27
特別利益合計	3,126	15,496
特別損失		
たな卸資産廃棄損	642	-
特別損失合計	642	-
税引前四半期純損失()	140,047	57,685
法人税、住民税及び事業税	237	246
法人税等調整額	-	-
法人税等合計	237	246
四半期純損失()	140,284	57,932

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失()	140,047	57,685
減価償却費	25,244	30,539
ソフトウェア償却費	735	448
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,317	56
製品保証引当金の増減額(は減少)	4,706	266
賞与引当金の増減額(は減少)	5,575	-
株式報酬費用	3,106	-
受取利息及び受取配当金	130	13
支払利息	2,349	994
社債利息	1,059	1,224
債務免除益	-	15,413
売上債権の増減額(は増加)	311,400	23,143
たな卸資産の増減額(は増加)	115,878	1,509
未収消費税等の増減額(は増加)	16,815	-
仕入債務の増減額(は減少)	129,655	37,426
未払金の増減額(は減少)	13,894	1,112
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(は減少)	2,012	360
未払消費税等の増減額(は減少)	1,931	1,201
その他	28,570	6,053
小計	50,346	58,605
利息及び配当金の受取額	130	13
利息の支払額	3,362	2,104
法人税等の支払額	950	950
営業活動によるキャッシュ・フロー	54,528	61,646
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	3,017	-
有形固定資産の取得による支出	20,363	400
有形固定資産の売却による収入	-	1,269
投資活動によるキャッシュ・フロー	23,380	868
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	74,471	59,393
株式の発行による収入	-	49,518
新株予約権付社債の発行による収入	349,890	-
新株予約権付社債の買入償却による支出	100,000	-
リース債務の返済による支出	-	1,323
長期未払金の返済による支出	639	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	174,779	11,197
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	96,870	71,974
現金及び現金同等物の期首残高	514,259	373,748
現金及び現金同等物の四半期末残高	611,129	301,773

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成21年6月19日付で、ジャパン・ブレイクスルー・2004投資事業有限責任組合から現物出資の方法による第三者割当増資を実施いたしました。また、同日付で、株式会社イーエーディエンドー建築設計室、時本豊太郎氏、熊崎友久氏、河野芳隆氏、渡辺悦子氏から第三者割当増資の払込を受けました。この結果、当第1四半期会計期間において、資本金及び資本準備金がそれぞれ217,287千円増加し、当第1四半期会計期間末において資本金が740,262千円、資本準備金が336,172千円となっております。

「参考」

6. その他の情報